



Peter Doig

ピーター・

ドイグ展

2020.2.26.WED

→→→→6.14.SUN

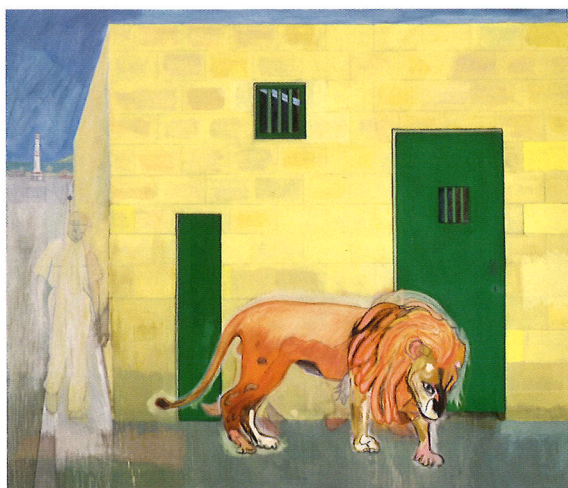
東京国立近代美術館  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

主催=東京国立近代美術館、読売新聞社、ぴあ  
協賛=マイケル・ヴェルナー・ギャラリー 協力=ヤゲオ財団  
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1 お問合せ=03-5777-8600(ハローダイヤル)  
美術館ホームページ=<https://www.momat.go.jp> 展覧会特設サイト=<https://peterdoig-2020.jp>

この風景を、  
あなたは知っている。

MOMAT

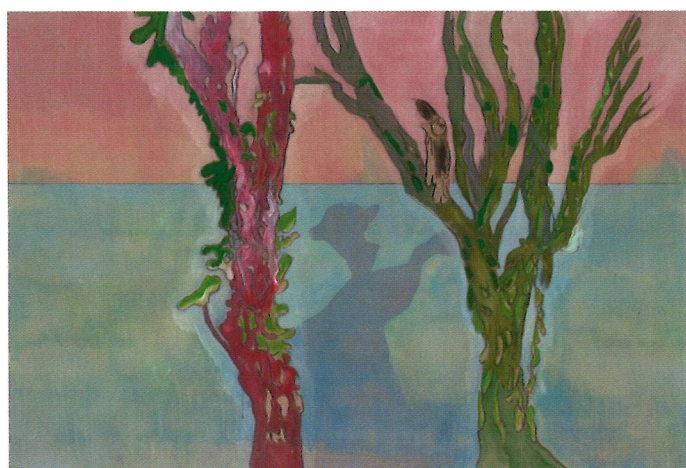
# イギリスが誇る現代の「画家の中の画家」 日本初個展



A



B



C



D

A.《ポート・オブ・スペインの雨(ホワイトオーク)》2015年、301×352cm、マイケルヴェルナー・ギャラリー B.《ラベイルーズの壁》2004年、200×250.5cm、ニューヨーク近代美術館 C.《2本の樹木(音楽)》2019年、240×359cm、マイケルヴェルナー・ギャラリー D.《夜の水浴者たち》2019年、200×275cm、マイケルヴェルナー・ギャラリー  
A, C, D... ©The Artist, courtesy Michael Werner Gallery, New York and London. B... ©The Artist, The Museum of Modern Art, New York, Gift of Anna Marie and Robert F. Shapiro in honor of Kynaston McShine  
©Peter Doig. All rights reserved, DACS & JASPAR 2019 C2966

ピーター・ドイグ(1959-)は、ロマンティックかつミステリアスな風景を描く画家です。今日、世界で最も重要なアーティストのひとりと言われています。彼は、ゴーギャン、ゴッホ、マティス、ムンクといった近代画家の作品の構図やモチーフ、映画のワンシーンや広告グラフィック、自らが暮らしたカナダやトリニダード・トバゴの風景など、多様なイメージを組み合わせて絵画を制作してきました。私たちが彼の作品に不思議と魅せられるのは、どこかで見たことのあるようなイメージを用いながらも、全く見たことのない世界を見せてくれるからだと言えるでしょう。本展は、ピーター・ドイグの初期作から最新作までを紹介する待望の日本初個展です。絵画から広がる想像の旅へみなさんをお連れします。

2020年2月26日(水) — 6月14日(日)

主催=東京国立近代美術館、読売新聞社、ぴあ  
協賛=マイケルヴェルナー・ギャラリー 協力=ヤゲオ財団

東京国立近代美術館  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

アクセス=東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分  
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1 お問合せ=03-5777-8600(ハローダイヤル)  
美術館ホームページ=https://www.momat.go.jp 展覧会特設サイト=https://peterdoig-2020.jp

## ピーター・ドイグの魅力

### 1. 現代アートのフロントランナー

1994年に、主にイギリスで活躍する現代アーティストに贈られる名誉ある賞「ターナー賞」にノミネートされて以来、ドイグは世界的な活躍を続けています。テート(ロンドン)、パリ市立近代美術館、スコットランド国立美術館(エジンバラ)、分離派会館(ウィーン)など、名だたる美術館で個展が開催されてきました。同世代、後継世代のアーティストに多大な影響を与え、過去の巨匠にならなくて、しばしば「画家の中の画家」と評されています。彼の作品は美術市場でも高く評価されており、2007年のオークションで、ヨーロッパの現存作家の作品としては、当時の最高価格で落札されました。

### 2. 想像力をかき立てるイメージ

多様なイメージによって構成された彼の作品は、いつかどこかで見たことがあるように感じられるため、私たちの想像力を刺激します。さらにカヌーや人物といったモチーフは、色や形を変えてさまざまな作品に登場します。そうしたモチーフに注目し、作品間のつながりを発見することで、私たちの想像力は1枚の絵を超えて広がります。

### 3. 日本も描いた! 豊かな風景描写

カナダの湖畔やトリニダード・トバゴの海、さらには日本のニセコのスキー場まで、ドイグはさまざまな風景を描いてきました。映画のワンシーンを参照することもあり、小津安二郎の「東京物語」を思い起こさせる作品もあります。

### 4. インパクトのある大型作品

本展では複数の大型作品が出品され、なかには幅3メートルを超える超大型作品もあります。印刷物やスマートフォンでは伝わらないスケール感を、ぜひ美術館で体感してください。